

OfByForコラム 地域の 地域による 地域のための Something NEWS

第41回

地方と社会の活性化は人財と共感 ——産業10次化は人材育成が主軸

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p
代表理事 佐藤建吉

このコラムの39号では、
軽井沢でのBook&Cafeについて紹介した。大事な地域の資源であり、本号は、人との出会いが宝である。

“OfByFor”の本質である、と感じたある。活性化には、新企画を練り、実施に向けた展開を進めるその発案者が必要である。その人物は、人財と呼ぶにふさわしい。

▼人材と人財

10年ほど前になるが、地域活性化学会の設立総会において、筆者は以下の質問をしたことを思い出す。学会の定款に相当する会則に「人財」という言葉が用いられていたの

で、「人財」よりは「人材」が必須となる。地域活性化学会のHPに材が適当ではないかと発言した。これを端として、その会則に関して、人財と人材の二つの言葉

「人材」か「人材」かの議論が巻き起こった。

当時は、「人財」は、まだ認知度が低かったが、今では、普通に用いられる言葉となり、両者は、使い分けられるようになったといえる。地域には、人材と人財の両方が必要である。

人材は、雇用したい人手を指す場合に用いら

右から片野氏と藤田氏(麴屋三四郎酒舗本店にて)



「片野桜」の銘柄に大感激する片野氏



が書かれた文書ファイルが遺っている。

▼片野氏との出会い

先月、東京の御茶ノ水で開かれた日本酒文化の会主催の東京の地酒を楽しまむ会で出会った片野隆氏を紹介したい。同氏は、老舗の大手ホテルチェーンの料理人だったがある出来事から料理

厨房部門のコンプライアンスを担当する責任者として、改革を実践された。その経験により、中国でも同部門の指導を担当された。現在は、伊豆で高級旅館の経営指導を行う。

また、一般社団法人宿泊施設関連協会協会の理事をされている。

このように、同氏は、食の安全や調理の信頼性確保のための制度つくりと指導を、国内外でしてきた。そのキャリアを活かし、2020年のオリンピック・パラリンピックに向け、関連する多くの協会を統一し、日本の信頼性保全を確かにしようと計画している。

りと指導を、国内外で進めてきた。そのキャリアを活かし、2020年のオリンピック・パラリンピックに向け、関連する多くの協会を統一し、日本の信頼性保全を確かにしようと計画している。

近年、インバウンド観光は重要な外貨獲得の産業であるが、日本を海外に紹介し、世界対応の国づくりを形成するチャンスでもある。観光産業は、この意味においても人材育成を急務としなければならない。

藤田氏は、一般社団法人わがふるさと応援隊

東京銀座の表通りは、日々新しくすることが義務付けられている一面があるが、銀座の裏通りは、終戦直後からの街の表情を垣間見ることができ、歴史を遺している。

その銀座一丁目の裏通りに、藤田黎一氏が経営する居酒屋がある。麴屋

共有し、これまでの人生を社会のために活かすことが自身の執る道である」と確認した。

彼らは、それぞれ、地域や社会のために、すでに行為行動している。それが出来るのは独特のキヤリアがあり、目的を持ち目標を設定しているからである。

▼10次化の重要性

「農業の6次化」のような言葉は、農業以外の

分野でも普及認知されてきた。従来の第1次産業、第2次産業、第3次産業の全体を含めた産業を、これらの数字を足し算して、「6次化」といわれる。

その農業が、高齢化や減反政策により後継者不足となり、ますますシュリンク(縮退)している。こうした状況は、その他の多くの分野や産業にも共通し、地方の疲弊を加速させている。

そこで、いま新しい概念が生まれている。人材育成が急務な重要な産業である。人材育成を第4次産業と呼び、1次から

4次までを足し算すると10次になる。すなわち、「10次化」であり、今の疲弊した地方を再生させる起爆効果となると考えられる。

片野氏と藤田氏がともに考えていることは、次の世代の人材・人財の養成である。新時代のコンプライアンスを身につけた料理人、発酵文化の意義を感じ取り地方と東京をつなぐ意識高い居酒屋。二人のまわりには、若い後継者がいる。

この御二方に刺激を得て、筆者も、10次化の構造を自身の取り組みに導入しようとしている。